

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ(ビジネス)等 ※知財インターンシップ
	学部・研究科等名	法学部、システム理工部、環境都市工学部、化学生命工学部
	担当教職員名・役職	知財センター長・谷 弘詞 教授知財コーディネーター・石原 治知財 コーディネーター・成田 謙也
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	2
	受入企業等数	1
	受入企業等名	一般社団法人大阪発明協会
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	知的財産権の専門家を目指す学生に対し、知財人材の育成と企業・地域の活力向上を目的とし、2年時に本学知財センターにて知財の基礎知識の習得を行った上で、3年時に中小企業等に派遣している。また3年時の学外インターンシップ終了後には、知財フェローとして翌年度インターンシップ生の指導を知財コーディネーターと共に行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している,2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	学部2年次～学部3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年時に知財の基礎知識の習得を行った学内インターンシップ経験者(3年次)を推薦する形式で、受入先で選考を行う。受入先企業の実績として大阪市内にある一般社団法人発明協会があり、主に特許調査やサイズ発掘といった実務経験ができるプログラムとなっている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用手法等を身に付ける授業等を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	2年次に特許調査の報告書を提出頂き、3年次に知財フェローとして知財コーディネーターと共に後輩指導をお願いしている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全4回の事前講座では、オリエンテーション(第1回)に続いてインターンシップの目的・意義の確認(第2回)、ビジネスマナーとコミュニケーションスキルに関する学び(第3回)を行っている。また、理工系学部の学生には安全対策に関する講座(第4回)を設けている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習の振り返りを個人で行うだけでなく、異なる実習先の学生とのグループワークや企業担当者を招いた実習報告会を通して、インターンシップでの気づきや意識・価値観の変化についてアウトプットを行っている。他の実習先に参加した学生とも交流することで、インターンシップでの学びを深めることができている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	疑問点を生じた場合に、知財コーディネーターに適宜相談できるよう同室で業務(特許調査・後輩指導)を環境を整えて、各テーマごとに報告書を提出頂いている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	特許調査報告書を本学知財センターで評価し専門的な学びを提供することに加え、インターンシップに参加する学生全体を対象とした社会人として必要なスキルを身につけるための研修に参加することを必須としている(本学キャリアセンターを主としたキャリア教育課程)。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい

要素⑤	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している。3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間7～11日間(うち学外インターンシップ5日間～9日間)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	一般社団法人大阪発明協会での「特許調査」・「知財セミナーの補助」といった実務経験
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学外インターンシップの受入先と適宜相談して内容調整をしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/chizai/intern.html
問い合わせ先	大学等名	関西大学
	担当部署名	社会連携部 知財センター
	担当者役職名	
	担当者氏名	濱田 七兵衛
	電話番号	06-6368-1245
	メールアドレス	sangakukan-mm@ml.kandai.jp